

G-SEC Newsletter

No.38 2014.11.1

所長インタビュー

「G-SEC 10年、これからの役割」

慶應義塾大学
グローバルセキュリティ研究所所長

竹中平蔵



G-SECの10年

2004年6月に慶應義塾大学グローバルセキュリティ研究所(G-SEC; Global Security Research Institute)が設立されてから、はや10年がたちました。私は、2006年11月に慶應義塾大学に戻って以来8年間にわたって所長を務めさせていただいています。

G-SECは慶應義塾大学のなかでもとりわけユニークな研究所です。第一に、それぞれの学部ではなく、慶應義塾に直属した研究所として重要な役割を担っていることです。第二に、大学内の他の教育研究機関と密接かつ有機的に連携して、国内外の大学、研究機関、営利・非営利法人等との研究ネットワークを構築し、先端的学術研究を推進することを目的としていることです。第三に、世界の変化を先取りし、現代社会が直面する諸課題の中から、今日的課題として研究が望まれる課題を学術研究の対象としていることです。

G-SECは、科学技術とイノベーション、エネルギー・環境問題、安全保障、ヒューマンセキュリティなど、地球規模の問題から個人の生活レベルに

も影響を及ぼす現代の諸問題に幅広く取り組み、これらに関わる政策について研究しています。そして、広範な分野の最大公約数としての共通課題を「Watch & Warning」と定めて、2007年度からWatch & Warningセミナーを実施すると同時に、数多くの研究プロジェクトを進めてきました。2009年度からは寄附講座を新たに開設し、研究・教育の内容の充実をはかってきました。

キーワードは「結びつける」

G-SECの使命は、慶應義塾大学が持っているリソースを使って、社会に対して活用できるように調査・研究を進め、社会の役に立てるようにすることです。同時に、学外の人にも参加していただき、慶應義塾の知的リソースと学外の知的リソースを結び付けて、社会に貢献していくことです。

実は、G-SECにとっては、「結びつける」ということが重要なキーワードになっています。経済学者

(2 ページに続く)



所長インタビュー 「G-SEC 10年、これからの役割」
G-SEC Faculty Seminar 第20回 開催報告
復興リーダー会議 (第3期) 活動報告
G-SEC Open Days 2014 開催のご案内

J. シュンペーターが「新結合」という言葉を使ってイノベーションを表現したように、学内外のリソースを結びつけて知的な貢献をするということは、G-SECがイノベーションを実現する役割を担っていることを意味しているからです。

G-SECは、その名の通り「グローバル」と「セキュリティ」という幅広い研究分野を守備範囲としているので、どの学部の研究者でもこの場を自由に使って研究していただけるという「寛容さ」を持っています。これは学問研究にとってはきわめて重要なことです。同時に、研究対象が広範になりすぎて何を研究しているのかわかりにくいという批判も当然ありました。

そこで、間口の広い研究所に一つの求心力を持たせるために、さまざまな研究を結び付けるためのプロジェクトを作りました。所長あるいは副所長が行なう「コア・リサーチ・プロジェクト」で、現在「グローバル経済研究会」「アメリカ研究」「バブル後25年の検証」「復興とリーダーシップに関する研究」「バイオセキュリティ分野の国際連携体制強化に関する研究」などが設置され、さまざまな研究プロジェクトがその傘下におかれて体系的・戦略的に実施されています。さらに、ファカルティの問題意識を束ねるためのファカルティセミナーを実施しています。

研究所の活動や成果については、『G-SECニューズレター』で報告しています。

研究と教育は表裏一体

また、本来、研究と教育は表裏一体をなすものだという考えから、6年前から、研究所に教育の機能を取り入れています。G-SECは外部資金で運営することになっているので、具体的には、「寄附講座」あるいは「公開講座」という形でこれを行なってきました。多くの企業からご寄付をいただき、「グローバル金融市場論」「アートと社会」「起業と経営」「イノベーション&リーダーシップ」など、G-SECにふさわしい講座を設けることができました。寄附講座では、従来とは一味違う異色の授業を多くの学生に提供することができたと自負しています。

さらに、社会との接点を大事にするということにも通じるのですが、「ディセミネーション」、つまり研究成果を社会に積極的に発信しようということで、ここ数年とりわけ出版活動に力を入れてきました。例えば、東日本大震災の後に実施した緊急プロジェクト

(大震災：日本の教訓)をベースにして『日本大災害の教訓』(竹中平蔵・船橋洋一編著、東洋経済新報社)とその英語版(『Lessons from the Disaster』ジャパントイムズ社)を2011年12月に同時出版し、2012年1月のダボス会議では、公式出席者全員に配布されるUSBメモリの中に本書の全文(英文)を入れることができました。さらにこれが一つの話題になって、『日本大災害の教訓』は、中国語や韓国語にも翻訳されました。これらの本を携えて、アジア、欧州、米国など7カ国10拠点でシンポジウムやセミナーを開催しました。

また、日本ツーリズム産業団体連合会(現(社)日本観光振興協会)の寄付により開催された公開講座は『ツーリズム成長論』(櫻川昌哉・慶應義塾大学グローバルセキュリティ研究所編著、慶應義塾大学出版会)として書籍化され、寄附講座「グローバル金融市場論」からは『はじめてのグローバル金融市場論』(藤田勉著、竹中平蔵監修、毎日新聞社)が生まれています。さらに、現在、2013年5月から2014年2月にかけて行なった研究プロジェクト「バブル後25年の検証」の書籍化を進めています。

変化する国際情勢とG-SECの役割

国際情勢は急激に変化しています。G-SECはこれまで国際情勢に適応したプロジェクトに力を入れてきましたが、今後もその方向を一層進めていきたいと考えています。

国際情勢に関して特筆すべきは「バイオセキュリティ分野の国際連携体制強化に関する調査研究」です。医学部の先生方のご協力によって、G-SECは世界のバイオセキュリティ研究の一大拠点になりつつあるからです。また、2013年からM3プロジェクトが実施されています。日中関係が難しい中で、こういう時こそ知的リーダーが集まって、率直な会話を日米中で、ヨーロッパを巻き込んで行なうという趣旨のプロジェクトです。

今後も、世界情勢が刻々と変わる中で、世界情勢に目を向けながら、国内外のリソースを糾合した研究教育機能をさらに高めていくことが、G-SECの務めであり、それが慶應義塾大学ひいては日本のために資することになると確信しています。

さまざまな人のご指導をいただきながら、G-SECをさらに発展させるべく努力を進めていきたいと考えています。

G-SEC Faculty Seminar 第20回開催報告

講演テーマ：「競争力をつくり直す」

講師：金田 光夫氏 鍋屋バイテック株式会社 代表取締役社長



鍋屋バイテック株式会社は、創業の歴史を戦国時代（1560年）に遡る、日本を代表する老舗企業です。

代表取締役社長の金田光夫氏をお招きして、リーマンショックや東日本大震災などを経て、経済社会の姿が様変わりするなか、会社の競争力をどう考え、それをどう変えていこうとしているかをご紹介します。

コーディネーター：田村 次郎（G-SEC副所長・法学部教授）

日時：2014年10月10日（金）18:30～20:00

会場：慶應義塾大学 三田キャンパス 東館6階 G-SEC Lab

企業が成長していくためには、持続的な新商品・新技術の開発と顧客との接点の強化が必要であり、それを実現する組織づくりと人材の育成が必要である。

製造業であり、中小企業である以上、開発、製造、販売といった基本的な組織能力をしっかりと作ることが必要だが、ややもすると縦割り組織の弊害もうまれかねない。同社では、商品群ごとに若いリーダーを置き、彼らが組織に横軸を通すことで、タテ・ヨコの風通しの良い連携を高めている。

商品開発は、自社の強みを活かしつつ、新たな土俵で戦える商品あるいはビジネスモデルを生み出すことを志向している。

顧客との接点は、納期の厳守や注文方法の簡易化などは勿論、ウェブサイト、紙カタログ、出張展示会など多様な機会を創り、顧客の信頼を獲得する努力を積み重ねている。

最も重要な人材育成については、一人ひとりの能力を高めることをめざし、多能工化を進め、資格取得者にはマイスター手当を支給する制度などを導入している。

「現在」は先人からのいわば贈物であり、先人に「借り」がある。だから、われわれは未来の仲間への責任がある。先人から受け継いだものを未来へとどう繋げていくかを考え、実践していかなければならない。

復興リーダー会議（第3期）

震災から3年が経過した今年度は、「形式知」化されてきた震災・復旧・地域振興等に関する知見や経験に基づき、非常時におけるリーダーシップの在り方、組織形成の在り方についての分析を通して、平時に応

用可能な汎用性のあるシステム作り、提言発信を行い広く社会と共有していくことを目指している。その一助として、「コミュニティ・オーガナイズ」の手法を取り入れ、理論と実践を行っている。

- | | | |
|----------|-------------|----------|
| * 第1回会合 | : 4月19日 | @慶應義塾大学 |
| * 東京合宿 | : 5月10日～11日 | @慶應義塾大学 |
| * 第2回会合 | : 6月21日 | @慶應義塾大学 |
| * 第3回会合 | : 7月19日 | @慶應義塾大学 |
| * 東松島合宿 | : 9月14日～15日 | @宮城県東松島市 |
| * シンポジウム | : 12月20日 | @慶應義塾大学 |

※ シンポジウムは、12月20日（土）に開催いたします。（次ページ参照）

事前登録が必要となりますが、どなたでもご参加頂けますので、ぜひお越し下さい。



G-SEC Open Days 2014 開催のご案内

詳細はG-SECウェブサイトをご覧ください

<http://www1.gsec.keio.ac.jp/>

慶應義塾大学グローバルセキュリティ研究所 (G-SEC) の活動をより多くの皆様に知っていただき、ご参加いただけますよう、11月、12月の2ヶ月間、セミナー、シンポジウムを、集中的に開催します。この機会に、G-SECの活動に触れていただけますと幸いです。

慶應義塾大学グローバルセキュリティ研究所長 竹中 平蔵



1 G-SEC Faculty Seminar 「交渉学のすすめ –リーダーの決断–」 (事前登録要)

研究所の取り組む課題について学内外の有識者・専門家をお招きして講演いただき、学内の教員・研究者との意見交換の場を設け、慶應義塾発のウォーニングにつなげていくことをねらいとして開催しています。

第21回 11月27日 (木) 寺田 優氏 (株式会社寺田本家代表取締役)

会場：三田キャンパス東館6階 G-SEC Lab 時間：18：30～20：00 (開場18：00)

2 G-SEC Square @ SFC ORF 2014 (東京ミッドタウン (六本木))

■シンポジウム (地下1階 ホール内セッションスペース) 11月22日 (土) 13：20～14：20

「2020年に向けて日本がやるべきこと～五輪のレガシーを考える」

基調講演：平 将明氏 (内閣府副大臣、衆議院議員)

登壇者：竹中 平蔵 (G-SEC所長)、武山 政直 (G-SEC副所長)、田村 次朗 (G-SEC副所長)

■ポスター展示 (地下1階 ホール) 11月21日 (金)、22日 (土)

G-SECにおける研究グループの活動報告をポスターにて紹介します。

3 寄附講座公開講義 森ビル寄附講座「アートと社会」 (事前登録要)

寄附講座の講義を、学生以外の方にも公開します。

12月5日 (金) 「日本でなぜオペラが必要なのか」 竹中 平蔵 (G-SEC所長)

ゲスト講師として東京二期会ゼネラルプロデューサーの福水 託氏をお招きして、オペラを聞きながら、アートが社会に果たす役割、意義について議論を深め、アート豊かな人生を持つために各自が何をすべきかを考えていきます。

12月19日 (金) 「邦楽の魅力と日本の文化社会」 竹中 平蔵 (G-SEC所長)

ゲスト講師として、世界的な規模で活躍する、日本を代表する箏曲家、西陽子氏をゲストにお招きして、西氏の演奏を堪能しつつ、箏という楽器を通して日本文化の特質を考えます。

会場：慶應義塾大学三田キャンパス西校舎ホール 時間：16：30～18：00



4 研究活動ポスター展示 12月1日～18日 東館3階エレベータホール

G-SECにおける研究活動を紹介する、ポスター展示を行います。

5 復興とリーダーシップに関する研究：「復興リーダー会議」シンポジウム (事前登録要)

日時：12月20日 (土) 10：00～12：00

会場：三田キャンパス東館6階 G-SEC Lab

ゲスト：マーシャル・ガンツ博士 (Dr. Marshall Ganz)

(ハーバード大学ケネディ公共政策大学院上級講師 (公共政策) / リベラルアーツ学部講師 (社会学))